

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000621		
法人名	社会福祉法人 清風会		
事業所名	グループホーム あけぼの		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字岩城484		
自己評価作成日	令和元年10月 1日	評価結果市町村報告日	令和元年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和1年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内からも国道3号線を行きかう車や町の象徴である重磐岩を眺めることができるのどかな環境にあります。和館・絆館ともに和風造りで穏やかな雰囲気を感じ取れると思います。入居者の個々の能力を見極め一人ひとりの思いを大切に、自由に安心して暮らして頂けるよう支援しています。地域に対しても開放的なホームを目指し、地域行事等に参加行ない地域住民との交流を図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋造りの民家風な面持ちを持つ事業所は、地域の方々と触れ合う機会もあり、自宅での生活を思わせる雰囲気です。従来から地域住民や中学生等、ボランティアの季節毎の来訪も継続しており、地域と共に入居者を支える姿が続いていることがうかがえました。家族アンケートでの満足度の高さからも、日頃の生活が穏やかで安心できるものであることが見えました。職員面談では「入居者の笑顔が一番大事」であるとともに「自分の笑顔も大事にしている」との意見があり、それが事業所全体の雰囲気に繋がっている様子が聞かれました。事業所としては馴染みの方々の来訪や日常的な外出を課題と捉えておられる様です。今後も「入居者の生きがいとやすらぎのある生活」を継続した支援に期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示し意識づけしている。月一回理念の振り返り・反省等おこない、実践につなげられるようしている。	「尊厳・受容・自由・安全・やすらぎ・自立支援」と、より分かりやすく理念が目指すところを表現されている。理念の振り返りは職員がより集まりやすい時間帯に行う様工夫され、事業所理念に併せ職員理念の両方について行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動にスタッフ参加したり、地域の方がホームへ除草作業に来たりして頂いたりしている。	清掃活動他、地域からの受入れだけでなく、職員の地域行事への参加、認知症啓発事業への参加、また入居者の祭りへのお出かけ等、相互交流が継続している。近隣住民との触れ合いも以前から変わらず続いており、日常的な交流が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとしてスタッフが参加し、少中学校や地域の人々に認知症の理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態やサービス提供報告行ない、色々な職種の方々や地域の方から助言を頂いている。	運営推進会議では事業所や入居者の状況報告だけでなく、事業所・地域と町を交えての情報交換の場としても活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に住居課長にも出席してもらい助言を頂いている。	日頃の連絡・報告・相談等により協力関係の構築を行っている。運営推進会議には毎回町からの出席があり、事業所の状況・取り組みを伝えるとともに地域からの質問等対応の場ともされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギは開け自由に入出りできるようにしている。苑での勉強会にも参加している。	法人に身体拘束廃止委員会があることから職員も構成員として参加し、内容は職員にも伝えている。現状、検討の上、状況によるセンサー等の使用も一部あるが、状況は運営推進会議でも毎回報告をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にホームからも参加し、虐待の防止について報告・話し合い行ない、苑全体での勉強会にも参加している。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加学ぶ機会を持つようにしているが、活用することなく知識不足も感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書及び重要事項等の説明行ない、不安や疑問点を尋ね、納得・理解して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の会話の中で要望等を聞き取り、玄関に意見箱を設置し家族や外部者の方に書いて頂くようにしている。	家族の面会時には職員からも声を掛け日頃の様子を報告し、意見・要望が出やすいよう努めている。意見箱の設置もあるが、現状は入居者・家族等から直接聞く機会が多い。毎月、入居者担当者から日頃の様子、コメント等を家族宛に記し、関係作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	和・絆館スタッフ一緒に月一回の合同会議を行ない意見・提案等出し合い、苑の職員会議等にて報告・反映させている。	毎月のユニット合同会議には殆どの職員が参加し、意見を述べる機会がある。意見は都度検討され、必要に応じて法人にも報告、反映されている。職員からのこれまでの意見で、業務改善を重ねて来た例も聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	色々な手当等にて給与水準があがり、また勤務内容や勤務時間等職員の負担とならないよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修への参加や法人以外での研修にも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスブロック会への参加を行ない、勉強会やレクリエーション等職員間交流行なっている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前(事前)にホーム見学をしてもらい、不安要望等聞き安心して入所して頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前(事前)にホーム見学をしてもらい、ご家族の不安要望等を伺っている。担当のケアマネより情報を頂いたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望・要望等聞き理解し、担当ケアマネからの情報もらい相談・助言をして頂くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方ができる作業活動はスタッフ一緒に行ない、困難なことは支援しながら行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への家族参加呼びかけ行ない、一緒に楽しい時間を過ごして頂くようにしている。またスタッフ付添い受診時の際は状態等情報を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のふれあい祭りに参加したり、近くの店に買い物でかけたりし、地域の人や知人より声かけて頂いている。	地域の祭りには入居者の見学も続いており、住民との触れ合いも見られる。家族の面会もよく見られ、また希望があれば職員が入居者と共に自宅を見に行ったりと、家族との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないよう職員が仲介役となり楽しく共同生活が送れるよう努めている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や医療機関等と情報交換連絡とりながら、入所先を捜したり手続き等の手伝い行ない家族への相談・支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い意向がある人には対応しているが、意思表示が困難な方は家族と相談し決定している。	日頃からの入居者への寄り添いで思いや意向を把握している。担当制ではあるが、全入居者の情報は把握・共有している。介護度が高い入居者では家族の意見が中心になってくる場合も多いのが現状である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族またケアマネ等から生活様子を聞き把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や連絡ノートへの記入を行ないスタッフ全員で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望・要望また担当者会議での意見等取り入れ、スタッフからの意見も聞き作成している。	毎月の職員会議ではケアについても話し合いを行っている。職員の意見も取入れ、家族も同席する担当者会議の内容を計画に反映している。遠方等の家族には電話で意見・要望を確認し、計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡ノートを活用し職員間で情報共有しプラン作成・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族のその時の状況や状態に合わせて、その時に必要なサービスを提供・支援できるよう取り組んでいる。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見や行事等や除草作業など区長や民生委員また地区ボランティアの方々に参加頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の継続をしている。状態変化時は相談し適切な処置をうけるようにしている。	以前からのかかりつけ医受診を継続して支援しており、状況により職員での通院介助も可能である。協力医からは定期的な往診もある。入院に至らない処置等においては、看護師資格を持つ職員も複数いることから、往診も利用しながらの対応を行う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は看護職員(兼務)へ報告相談し、母体の看護師にも相談し助言等頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院との間で情報提供・情報交換を行なっている。退院後も戻ってこれるよう居室の調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の要望を基に、かかりつけ医・家族・ホーム等で十分話し合い、お互いが納得できるようにしている。	重度化や終末期に向けた方針は入居時に説明し同意を得ている。従来、看取りは自然のものと捉え、関係機関と協力しあい、訪問看護等も利用しながら支援している。近年、医療的対応が必要になった場合、医療機関へ移るケースも多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成や手順は伝えてあるが、全ての職員が対応できるとは思えない。まだまだ不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災通報訓練や台風や水害等自然災害に備えての訓練兼ねての避難行なっている。避難時にはホーム全職員へ連絡し、応援してもらっている。	全職員で防災活動隊を組織し、情報・安全・救護等の班制で訓練を重ねている。自然災害を想定した訓練は実践しながらで、今年も、関連事業所へ全入居者の移動・宿泊訓練を行った。	

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々言葉使いの悪い(おかしい)スタッフには、気づいたスタッフが注意して、入居者の方を傷つけないように配慮している。プライバシーに関しての研修も参加している。	入居者との寄り添いの中で、それぞれに合った言葉遣いや対応を行っているが、方言等による慣れやくだけた言葉への配慮も必要と感じている。身体的なケアだけでなく、全体的な対応について研修等を行っている。	訪問時の職員面談では、現状の入居者の動き等、場面によるスピーチロックも課題としている様子も聞かれました。研修会参加等、事業所全体での取り組みが見られました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいように声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に沿った支援をと常に思っているが、業務や職員人数等にてできない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧されおしゃれされる方もおられる。整容など自分で出来る方にはやって頂くように声かけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや皿拭きなどは毎日のようにされている。誕生日や献立に好きなメニューを取り入れるようにしている。	ユニットそれぞれに入居者の希望を出し合い、参考に献立を決めている。誕生日の希望メニューやバイキング等、趣向を凝らした日もある。準備から後片付けまで出来る範囲での入居者の関わりも継続している。	職員手作りの食事は地域の野菜もふんだんに使われ好評な様子がうかがえました。入居者それぞれの状況にもよりますが、可能な方には椅子への移乗を検討することを、担当者会議等での話し合いに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量確認記録し、体重の変化に注意している。摂取量少ない時は栄養補助食品で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている人は行なっているが、その他の利用者には口腔ケアを支援している。週一回の義歯消毒を行なっている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多いが、定期的に声かけ誘導行ない、排泄チェック表を活用している方もいる。	現状、自立されている方も多く、昼間は声掛け程度である。夜間はポータブルトイレ等も利用し、入居者それぞれへの対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表活用したり水分補給促し繊維質を摂取してもらったりしている。主治医に緩下剤等の相談も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き入浴チェック表を活用し、受診前や外泊前には入浴して頂き清潔保持に努めている。	入居者の状況や希望、予定等を考慮し、週3回程度の支援を行っている。職員は安全を配慮した見守りを基本とし、個々に合わせた不足している所の手伝いを主としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅での生活習慣を把握し本人の希望で休んで頂き、昼夜逆転にならないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容を確認し変更があった場合連絡ノートを活用しスタッフ全員把握するようにしている。副作用調べたりし日頃に生活状態に変化ないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事活動計画し、楽しみ持ち気分転換を図って頂いている。全員での参加は難しくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の希望あれば、できるだけ応じるようにしているが、自ら希望される方少なく職員らの声かけにて外出楽しめるようにしている。	日常的な外出は機会を作り、職員付添いのもと支援している。近隣畑の作物の成長を楽しみ、近くへの散歩、職員が外出する際に一緒に出掛ける等がなされている。近年、入居者からの自発的な希望が出辛くなっていることが課題と受け止めている。	日常的な外出だけではなく、季節毎の花見等、計画による外出の様子が聞かれました。年々、意欲の低下が見られるようですが、一人ひとりの思いを感じ取り日常的な外出の継続した支援に期待します。

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布持っている方はいないが、希望される方にはいつでも対応できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも対応している。個人で携帯電話所有され話される方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾や花を活けたりして季節を感じてもらい、居心地良い落ち着いた雰囲気作りにも努めている。	共用空間には季節の花々が飾られ、地域に親しまれてきた川に面した窓からは穏やかな日差しが差し込み心地よい空間を作っている。窓の下に植えられた野菜の成長は食卓を彩り、入居者の話題にもなる。家具の配置は車いす移動にも配慮されゆったりとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子ソファ等の配置に気を配り気の合った利用者同士と一緒に過ごせたり、独りでゆっくり読書等して頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を聞き入れながら、慣れ親しんだ家財を持参してもらい居心地良い生活環境作りをしている。	ベッドと箆笥が備え付けられた居室は手作りの手芸品や使い慣れた物が持ち込まれている。居室でテレビを楽しむ姿もあり、入居者が思い思いに過ごすことが出来る空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路は物を置かないようにして、わかることを大きく表示し自分で行なえることはして頂けるよう工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホーム あけぼの

令和 元年 12 月 26 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	車椅子のまま食事される方がおられ、可能な方には椅子への移乗行ない食事を楽しんで頂いた方が良いのでは？	食卓用の椅子にて食事を楽しめるよう支援する	椅子への移乗行ない他者と一緒に食事を楽しんでもらう（本人の意思を尊重する）。肘付き椅子の購入も考える。	3ヶ月
2	49	入居者からの自発的な希望が出辛くなっている。	希望に沿った外出ができる	日常の会話等のなかで、行きたい所を聞きだし外出につなげていく。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。